

バハイ聖地巡り

(聖なる場所・史跡と世界センター)



バハイ聖地巡り(聖なる場所と史跡と世界センター)

イスラエルのエルサレムはユダヤ教、キリスト教、イスラム教の3大宗教の聖地である。この3つの宗教の聖地はエルサレムの堅固な城壁で囲まれた旧市街の中にありユダヤ教の「嘆きの壁」とキリストの受難の場所(磔になった場所)「ゴルゴダ」とイスラム教の第二の聖地で預言者モハメドの魂が天に昇ったと言われる「ドーム・オブ・ロック」のある場所である。これらの聖なる場所は直線距離で各々が 300 メートルも離れていない至近距離内にある。この旧市街は昔から世界3大宗教(キリスト教、イスラム教、ユダヤ教)の聖地である。

バハイ信教の聖地ハイファ市はエルサレムから 150 キロメートル北方にある。バハイの聖地はアッカ市とその周辺とハイファ市のカルメル山の北斜面に集中している。アッカ旧市街は 2001 年に世界遺産に、ハイファ及び西ガリラヤ地方のバハイ聖地群は 2008 年に同じく世界遺産に指定された。バハイ信教とイスラエルの関わりは、バハオラがトルコからアッカへ流刑された時から始まる。イスラエルでのバハイ信教の「聖なる場所」と「名所・史跡」と言われるところは大きく分けて下記3ヶ所ある。

1. アッカの牢獄と市内及び周辺

- 1-1 アッカの牢獄 (バハオラとその家族は 1868 年から 2 年 2 ヶ月幽閉された)
- 1-2 アブドル・パシヤ(アブドル・バハの家族はこの家に 1896~1910 まで住まれた)
- 1-3 アブードの家 (1871 年から 1896 年まで 25 年間住まれた)
- 1-4 カーニィ・アバミッド隊商宿(バハオラ一行がアッカの牢獄を出された後、一時利用した宿舎)
- 1-5 レズワンの庭園(ナマイン川の中洲にある)
- 1-6 スレイマンの水道橋(バハオラの助言によって再建された水道橋)

2. バージとその周辺

- 2-1 バハオラの霊廟(バージの邸宅の近くにある)
- 2-2 バージの館(バハオラが12年間住まれた家)
- 2-3 バージの庭園(この庭園の中にバハオラの霊廟やバージの邸宅がある。)
- 2-4 マズラエの家(バハオラがバージの館に移る前の2年間住まれた家)
- 2-5 新バージ巡礼の家(2001 年に建設)

3. ハイファのカルメル山中腹とその付近ある主な訪問場所は

- 3-1 カルメル山(その昔から主の山と言われた山)
- 3-2 アーク(万国正義院の建物を中心とした建物と庭園)
- 3-3 バブの霊廟
- 3-4 アブドル・バハの霊廟
- 3-5 テラス式庭園
- 3-6 万国正義院の建物
- 3-7 国際史料館
- 3-8 国際布教センター
- 3-9 聖典研究センター
- 3-10 モニュメント・ガーデン、(ここにはバハオラの聖なる家族の 4 人のお墓がある。)
- 3-11 アブドル・バハの家(バブの霊廟を海岸に向かって 800 メートルほど下った所)
- 3-12 ルヒヤ・カヌームの墓所(アブドル・バハの家の前にある)
- 3-13 旧西洋人用巡礼の家(この家はアブドル・バハの家の前にある)
- 3-14 旧東洋人用の巡礼の家(バブの霊廟のそばにある)
- 3-15 バハイ墓地(エリヤの洞窟の近くで海に近いところ)
- 3-16 バハイ礼拝堂用地(カルメル山山頂にある)
- 3-17 国際バハイ図書館

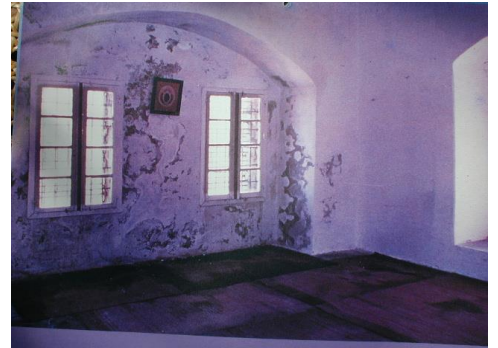
1-1 Prison of Akká or Acre or Akko アッカの牢獄



この牢獄は 19 世紀以降トルコの支配下になり、牢獄の町となっていた。1868 年バハオラと家族一行 80 余名はアッカ港に着くと直ちに兵舎の 3 部屋に収容され、鍵をかけられ、厳しい監視のもとにおかれた。当時、この兵舎は極悪罪人の収容される牢獄となっていた。牢獄には食べ物もなく飲み水もなかった。のどの渇いた一行は飲み水が欲しいと言ったが拒否された。その後、飲み水は近くの天水桶にたまった水を飲まねばならなかった。この水は黒く濁っていてとても飲めるような水ではなかった。しかし、ほかに水は無かったのでその水を飲まねばならなかった。初めの数日間子供たちは泣き続け、殆んど眠ることも出来なかった。一日の食事として一人に 3 ケの黒い硬いパンが与えられたが、塩辛くてとても食べられるものではな

かった。事情を役人に話し、役人の看視の下でマーケットへ行ってそれらのパン 3 ケと少しましなパン 2 ケと取り替えてもらった。その後は、パンの代わりにごく小額の食事代が支給された。その食事代では買える食べ物は非常に限られ、味のない石のように固くなったパンしか手に入らなかった。

この牢獄に、家具や寝具は全然なく、外部からの訪問は厳重に禁じられた。また、誰も牢獄の外に出ることを許されなかった。ただ、僅か 4 名のものだけが厳重な監視の下で食料の買出しに出ることを許された。バハオラと家族の一行はコンクリートの床の上に寝具なしで寝なければならなかった。また、食物も極度に不足した状態での生活で、多くの者が病気に罹り、飢えと疫病で死んでいった。2 人の死者が出た時、バハオラは 2 人の埋葬費用としてご自身の絨毯を提供したが、その金は牢獄の役人に横領されてしまった。そして、死体は穴に投げ込まれた。この頃、バハオラの最愛の息子ミディ(ピュアレスト・ブランチ)が明り取り窓から転落し亡くなられた。イランの数名のバハイはバハオラのお姿を拝見しようとはるばる徒歩でアッカまで着たが、牢獄に入ることは許されなかった。そこで、彼らは第三の濠の外側の原で、バハオラの幽閉されている部屋の窓を遠くに見るところに出た。バハオラはその窓の一つから姿を現した。来訪者は遥かにバハオラを見て涙を流した。そして、帰路についた。1870 年この牢獄が兵舎として使われる事になったので、一行は この牢獄から出された。バハオラと一行はこの牢獄で 2 年 2 ヶ月と 5 日間過した。(上の写真:バハオラが幽閉されたアッカの牢獄)(下の写真:バハオラが 2 年 2 ヶ月幽閉された部屋)

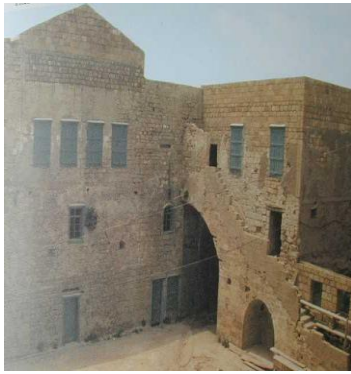


1-2 House of Abbud アブードの家

この家はアッカ市内の地中海に面したところに建てられている。この家はもと、ウディ・カンマールの家であったが、カンマールの甥のアブードと一緒に住むようになってウディ・カンマールの家とアブードの家と呼ばれるようになった。カンマールはバージに大邸宅を建てたのでこの家が要らなくなり、バハオラ一行に貸すことになった。アブードは反対して自分の家を仕切りで分けた。バハオラの家族は大家族で、手狭なこの家で一部屋に男女 13 名と一緒に住むことになった。バハオラはこの家で「アグダスの書」を著され、アブドル・バハはムニレ・カヌームと結婚された。アブドル・バハが結婚されるという話をアブードが知ると、アブードは彼の家を空けてアブドル・バハに貸し出した。それをきっかけに、住宅事情は改善され、それからこの家は「アブードの家」と呼ばれるようになった。バハオラはこの家に 1871 年から 1886 年までの 15 年間住まわれた。アブドル・バハの家族は 1871 年から 1896 年までの 25 年間住まわれた。バハオラの奥様はこの家で 1885 年に亡くなられた。この家に住んでいた 25 年間にはいろいろの出来事があったが、最大の事件は聖約の破壊者のアザリ派の 3 名の殺害事件であった。バハオラはアブードの家からバージの邸宅に移り住んだ後も、時折、アブードの家を訪れている。バハオラがバージで昇天された時も、アブトル・バハの家族はこの家に住んでおられた。(写真:アブードの家(;ハオラが「アグダスの書」を書かれた)



1-3 House of Abud'lláh Pasha アブドル・パシヤの家



アッカ市の提督であったアブドル・パシヤによって 1810 年代に建てられた石造りのお城のような家でアッカ市内にある。アブドル・バハの家族は 1896 年から 1910 年までの 14 年間住まわれた。バブの殉教から 50 年たった 1899 年にバブの遺体を収めた木の棺が密かにイランから何ヶ月もかけてアッカのアブドル・パシヤの家に運び込まれた。バブの遺体の収められた棺は 1909 年にバブの霊廟が完成されるまでここに保管された。守護者ショーギ・エフェンディもこの家で誕生された。1898 年にアメリカの最初の巡礼団が来たとき、アブドル・バハは巡礼団とこの建物で会っている。イシカバードの最初の礼拝堂の建設や、バブの家の再建計画の指示はアブドル・バハがこの家から出していた。ローラ・クリフフォード・バーニイはこの家でアブドル・バハにいろいろな質問をして、それをまとめあげて「質疑応答集」を完成させた。この様にいろいろの出来事に満ちたこの家は 1975 年にバハイの手に戻り、ルヒヤ・カヌームの指揮の下で昔の面影に近い調度品が配備された。(写真:アブドラ・パシヤの家)

1-4 Khan-i-'Avamid アバミッド・カーニイ

アッカの城壁内にある隊商宿。バハオラー族はアッカの牢獄を出された後、この隊商宿で数ヶ月を過ごした。バハオラーの従者の一行はこの隊商宿の西と南側の建物の 2 階の部屋に入った。アブトル・バハは一部屋を借り、イランやイラクからはるばるバハオラーに会いに来る巡礼者との面会の部屋とした。アブドの家に移った後も、アブドル・バハはこの隊商宿の一室を借り続け、イランやイラクからはるばるバハオラーに会いに来た巡礼者をもてなしたり、バハオラーに面会させる手はずを整えたりした。従って、この隊商宿はバハイの歴史において最初の巡礼館であった。



1-5 The Ridván Garden (Na'mayn) レズワンの庭園(ナマイン)

アッカの南東、市壁から 1 キロのところを流れる川の中州。アブドル・バハは 1875 年にバハオラーのためにこの土地を借り庭園を造った。バハオラーはこの庭園をレズワンの庭園と命名された。バハオラーはここを何度も訪問されている。小さな中州には草が生い茂り、季節の花が咲き、噴水がある。また、小さな小屋も建てられている。バハオラーはここを訪問すると、ベンチに腰をおろして、小屋で休息してくつろがれたという。



1-6 Aqueduct of Sulaymán スレイマンの水道橋 [建造物]

その昔、アッカに水を供給する為に作られた水道橋があった。バハオラー一行がアッカに流された時は、部分的に残っていたが使われていなかった。アッカの町に住む人々は衛生的な飲み水が不足して困っていた。アハマッド・ビッグ・タウフィグがアッカ市の市長になった時、アブドル・バハと交際があり、バハオラーの書物を読んでバハオラーに好意を持っていた。彼は、バハオラーに会って、私が市長になったので何をしたらいいかとバハオラーの意見を求めた。バハオラーは、水道橋を修復したらどうですかと言った。市長は早速、水道橋を修復する大事業に着手しアッカの町で水道が使えるようになった。この水道橋は、今は使用されていないが、水道橋の一部は今も残っている。



2-1 Shrine of Bahá'u'lláh バハオラーの霊廟・バハオラーの廟 [建物]

バハオラーの遺体の安置してあるところ。1892 年 5 月 29 日バハオラーが昇天した。その日のうちに、バハオラーの遺体はバージのマンションに隣接する家の一部屋の床下に埋葬された。この場所は、バハイにとってこの世で最も神聖な場所である。また、毎日のお祈りを上げる時、ゲブレといって世界各国のバハイはこの霊廟に向かって毎日お祈りをする。この霊廟は非常に簡素なものであり、一時的なものである。やがては立派な霊廟が作られるとの話しもある。(バハオラーの霊廟の入り口。上部に見える窓のたくさんある部屋や祈りの部屋)



2-2 Mansion of Bahjí バハオラのバージの館



この邸宅は1871年にアッカの提督アブドラ・パシヤによって建てられたが、後に、アッカの商人ウディ・カンマールに買い取られた。1870年に大改修された。1879年この辺にペストが大流行したので、家族一同は他の家に移って空き家になっていたのも、アブドル・バハはバハオラのためにこの家を借りた。バハオラは、この家で「狼の子への書簡」その他多くの書簡を著した。バハオラは1992年この家で昇天された。(写真の左に見える建物がバハオラの館) この邸宅はその後、聖約の破壊者によって占

拠されていたので内部が大分荒廃してしまった。1929年守護者ショーギ・エフェンディはこのマンションをバハイの手に取り戻した後、大修理を行い、また、近辺の土地を買収して庭のデザインを計画し、美化に努めた。現在、バージの館には展示物が飾られ、バハオラの寝室も昔のままに保存されている。この館の内部見学は9日間の巡礼者と国際大会の代表者だけ訪問する事が出来る。3日間の短期訪問者にはその内部は開放されない。(バハオラの館の内部広間は展示室になっている)



2-4 House of Mazra'ih マズラエの家

この邸宅はアッカの北7キロの田園地帯にある。バハオラは1876年アブードの家からこの家に移りここで2年過ごされた。この家に関してアブドル・バハは次のように言われている(バハオラと新時代より)。「バハオラは田舎の青々とした緑を愛された。ある日バハオラは言われた『予は9年間草木の繁った景色を見なかった。田舎は魂の世界であり、都市は肉体の世界である。』」

アブドル・バハは間接にこの話を聞いた時、バハオラは田舎を愛しておられるのだと思った。アッカにモハメド・パシヤと言う者がいて、彼はマズラエと呼ばれる邸宅を持っていた。この邸宅は花園に囲まれ、近くに小川もあり非常に好ましい場所であった。その上、邸宅の持ち主はこの家を空き家のままにしていた。アブドル・バハは邸宅の持ち主にその家を貸してもらいたいと頼んだ。低廉な家賃で5年分を前払いして契約した。(マズラエの家 バハオラはこの家に2年ほど住まれた)



その後、この家にはいろいろな人が住んだが、その内、この家がイスラエル政府の建物となり、政府の役人の保養所にする話を聞いた守護者ショーギ・エフェンディは時の総理大臣ベングリオンに直々面会し、バハイにとってこの家がかげがえのない大切なものであると説明し、バハイが賃貸契約を結ぶことが出来た。守護者はこのことを1950年に世界のバハイに報告している。

2-5 New Pilgrim House of Bahjí バージの巡礼館

旧バージ巡礼館はバハオラの霊廟とバージの邸宅の中間にあった。巡礼館は9日間の巡礼者や聖地短期訪問者が休憩をとったり聖地訪問に関する説明を受けたりする事務所があるところ。現在、新しいバージの巡礼館がバージの庭園側の駐車場の近くに建設された。

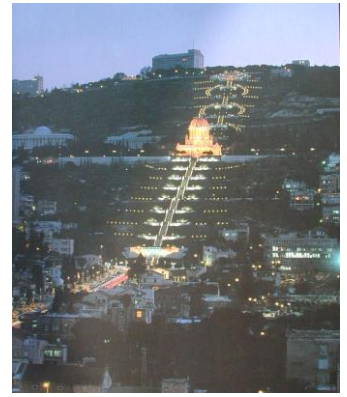
2-6 Collins, Gate コリンズ・ゲイト



守護者ショーギ・エフェンディによって発注されて造られた鑄鉄(チュウテツ)の大きな門。この門はバハオラの霊廟に通じる北の表面入り口にある。ショーギ・エフェンディはこの門を大業の翼成者アミア・コリンズの名前を取ってコリンズ・ゲイトと名付けた。アミア・コリンズは1919年にバハイになり、その後、アメリカ・カナダ全国精神行政会のメンバーを長年務め、1951年から国際バハイ評議員などを務め大いに功績があった。特に、自分の生活は至って質素で通したが、世界5大陸の礼拝堂用地の取得、国際資料館建設資金と家具の購入、旧国際布教センターの建設資金などバハイのために莫大な資金の援助をしてくれたことで有名である。(コリンズの門。この先の突き当りはバハオラの霊廟)

3-1 Carmel, Mount カルメル山

イスラエルの北西部、地中海に面したハイファ市内にある小高い山。この山はその昔から「主の山」として知られている。この山は、ユダヤ教及びキリスト教にとっても神聖な山で、バハイ教にとっても神聖な山。ここはバハイ教の精神的及び行政的中心地。バハオラはカルメル山の書簡に“やがて神は神の箱船を汝の上に漕ぎ出すであろう、そして、名称の書に述べられたバハの人々に明らかにするであろう...”と述べている。守護者はこの文を解釈して、“神の箱舟とは神の掟のことで、箱舟を汝の上に漕ぎ出すと言う意味は万国正義院の設立を意味する”とのべている。このカルメル山の中腹の斜面にバハイ世界本部である万国正義院、国際史料館、国際布教センター、聖典研究センターと、神の顕示者バブの霊廟とその霊廟をはさんで上段と下段合わせて1



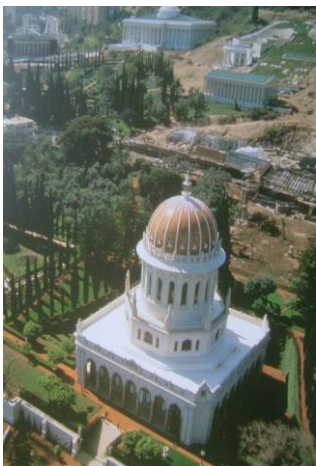
キロメートルにおよぶテラス式庭園、アブドル・バハの霊廟などが建てられている。カルメル山の麓にはアブドル・バハの家、旧西洋人巡礼館、ルヒヤ・カヌームの墓所などがあり名実共に世界本部である。特に、金色のドームをもつバブの霊廟と上下1キロメートルに及ぶテラス式庭園はバスや乗用車で市内に入る前から直ぐに目に入ってくる光景で知られている。カルメル山の頂上近くにはバハイの礼拝堂用地があり、今は、その場所を示すモニュメント(石塔)が建てられているが、やがては、そこに礼拝堂が建てられる予定である。海岸の大通りに近いところには、バハイ墓地がありハイファで亡くなられた人たちの墓所がある。日本人の藤田さんの墓もある。

3-2 Arc アーク

カルメル山の中腹にある弓形のバハイの建造物の集合体を言う。このアーク(プロジェクト)はバハイの国際行政センター建設のためのもので守護者ショーギ・エフェンディの計画によるものである。このプロジェクトに含まれる建物は今既に完成している万国正義院の建物と国際資料館に加えて最近建設が終わった国際布教センターと聖典研究センターと今後建設が予定されている国際図書館からなる弓状の建造物の集合体である。これら5つの建物は、相互に地下の深い所で連結している。万国正義院の建物以外は、表面に出ている部分よりも地下に隠れている部分のほうが面積が広いように設計されている。アークの前面は斜面になっていてその下の方に、バハオラの奥様やアブドル・バハの奥様やアブドル・バハの妹のバヒヤ・カヌーム(最も聖なる葉)やアブドル・バハの弟 Purest Branch(純粋な枝)たちのモニュメント形式のお墓「モニュメント・ガーデン」がある。その後も、少しも変更されていない。この霊廟は、恒久的でなく、後日、アブドル・バハの霊廟が出来れば、そこに移される。



3-3 Shrine of the Báb バブの霊廟・バブの廟 [建物]



ハイファのカルメル山の中腹にあり、ハイファ港が見渡せる場所にある。バブの霊廟は金色のドームをもつ建物で、守護者ショウギ・エフェンディとスーザーランド・マックスウエル氏の設計によるものである。建物の中は、9つの部屋になっていて、バブの霊廟にはその中央の3部屋が使われている。バブの遺体はその中央の部屋に埋葬してある。その両側の部屋はそれぞれ入り口があり、お祈りを上げる部屋になっている。部屋の床には厚いペルシャ絨毯が敷き詰めてあり、部屋の中は静寂そのもので、雑念のない心でお祈りをすることができる。

1891年バハオラはバブの遺体をここに埋葬することをアブドル・バハに指示した。アブドル・バハは、1898年にイランのバハイにバブの遺体をテヘランの隠し場所からイスラエルのハイファに移すよう命じた。遺体は無事翌年の1899年にハイファに到着した。アブドル・バハは早速、霊廟建設の地鎮祭を行い、建設が開始された。バブの遺体を収

バハイ聖地名所旧跡案内

める綺麗に彫刻された大理石の棺は、ビルマのラングーンのバハイによって寄贈された。霊廟建設には難問が幾つもあった。当時は舗装された道路がなかったし、建物建設を許可する役人の反対があった。また、当時、アブドル・バハは、依然拘束中の身でハイファへ行っている指示することが出来なかった。建物が完成したのは10年後の1909年になってしまった。この間、バブの遺体はアブトル・バハの住むアブトルパシャの家の2階の一室に密かに安置されていた。1909年の3月21日に、ビルマのバハイから送られた棺が、地下の置所に置かれ、アブドル・バハの指示でバブの遺体の収められていた木製の棺がその中に収められた。現在の建物は、ショウギ・エフェンディがスーザーランド・マックスウエル氏に命じ初期の建物を包むように黄金のドームに輝く現在のバブの霊廟を完成した。

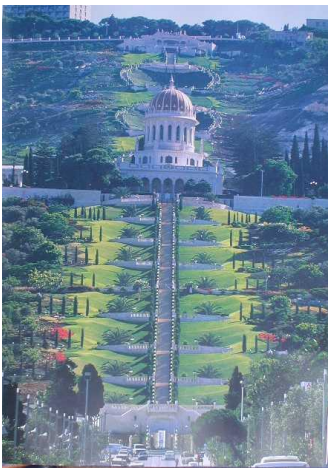
威厳と荘厳に満ちたバブの霊廟内の飾りつけはショウギ・エフェンディご自身で行われた。現在あるバブの霊廟内の飾りつけは守護者ショウギ・エフェンディがなされたそのままの配列を守っている。

3-4 Shrine of 'Abdu'l-Bahá アブドル・バハの霊廟

アブドル・バハの葬儀にはバハイ教の信者はいうに及ばず、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の信者たちが1万人ほど出席した。このように大勢の参列者があった葬式はこのパレスチナでは一度もなかった。この葬儀ではイスラム教、ユダヤ教、キリスト教などを代表する9名の代表者が弔辞を述べた。その中にはイスラム教のハイファの法典解説者もいた。この葬儀の最後を締めくくったのは、当時この地域を統括していた英国の高等弁務官でアブトル・バハの棺の側まで歩み寄って深く頭を下げ最後のお別れをした。ハイファ市の高官も同じように深く頭を下げ最後のお別れをした。

その後、アブトル・バハの棺はバブの霊廟となりの部屋の地下室に安置された。アブトル・バハの遺体はバブの霊廟の隣にある。金色のドームを戴くバブの霊廟は9つの部屋があり、バブの霊廟はその中央の3部屋を使い、アブドル・バハの霊廟も北側の3部屋を使っている。残りの3つの部屋は現在は空調設備などが入っている。アブドル・バハの霊廟は3つの部屋に区切られていて、彼の遺体は中央の部屋の地下室に埋葬されている。両側の部屋は、それぞれ鉄の扉のついた入り口があり、お祈りを上げる部屋である。遺体を埋葬されている部屋は3つの部屋の中央にあり、双方ともガラス張りで中央の部屋の中が見えるようになっている。この中央の部屋の飾りつけは、守護者ショウギ・エフェンディ自身がしたもので、その後も、少しも変更されていない。この霊廟は、恒久的でなく、後日、アブドル・バハの霊廟が出来れば、そこに移される。

3-5 Terrace テラス式庭園



バブの霊廟の上方と下方に広がる各9段、計19段あり、総延長距離は1キロメートルほどある。また、このテラス式庭園の下には2本の道路があり、テラスはこの道路を橋で跨いでいる。このテラス式庭園は2001年5月に正式な開通式が行われた。このテラス開通式には各国から代表者19名が参加を許された。日本からも全国精神行政会によって選ばれた代表者19名と国際布教センターで国際顧問を務めたシュエリン・公子ご夫妻が参列を許された。テラスの一番下の段の前方には広い道路の両側にジャーマン・テンプラー・コロニーの特徴ある煉瓦色の屋根の家が並んでいる。その先は海岸通に通じている。テラスの階段の全長は1キロメートル、標高差は225メートルある。そのテラスの中央に金色のドームを戴くバブの霊廟がある。テラス完成以前にもバブの霊廟から海岸通に通じる階段があつて「王様の道」呼ばれていた。時来たれば、世界中からこの階段を上ってバブの霊廟に参拝に来るといわれていた。このテラス式庭園はハイファ市が誇る観光名所となっている。

3-6 The Seat of the Universal House of Justice 万国正義院の建物

万国正義院はバハイ信教の最高機関であるとバハオラの最も聖なる書「アグダスの書」に書かれている。万国正義院のメンバーはすべて男性でなければならない。万国正義院のメンバーは5年に一度イスラエルのハイファで世界各国の9名の全国精神行政会メンバーによる投票で選ばれた9名のメンバーで構成される。バハオラは万国正義院は不謬であると言われている。万国正義院はバハオラの定めていないすべての事柄について決定することが出来る。万国正義院の建物は地上3階地下2階の建物である。この建物の外壁の周囲にはギリシャの大理石の円柱が立ち並び建物の外壁も大理石が嵌め込まれた美しい建物です。この



バハイ聖地名所旧跡案内

建物を中心にアーク状に、国際布教センター、聖典研究センター、や国際資料館がある。また、建物の表面階段を下ったところにモニュメント・ガーデンと呼ばれるバハオラの奥様とアブドル・バハの妹のバヒヤ・カヌーム、アブドル・バハの弟のピュアレスト・ブランチとアブドル・バハの奥様のホーリーマザーの4名のお墓がある。

3-7 International Archives 国際史料館 建物

国際資料館は、アークの建物の一つで、カルメル山の中腹に建てられている。この資料館の中には、バハイの歴史に関係ある大切な史料が保存されている。中でも大事なものは、バブとバハオラの肖像画と写真である。それに、バブやバハオラ自身の書かれた多数の書簡と、身につけられていた、衣服、手袋、帽子などと、実際に使われた印鑑、すずり、ペンなどである。この国際史料館は手狭になったのでアーク・プロジェクトの一環として拡張工事が行われた。この史料館に入室を許可されるのは、9日間の巡礼を許可された者と、国際大会の代表者だけに限られている。(国際資料館建物)



3-8 International Teaching Center 国際布教センター

従来、国際布教センターはアブドル・バハの家の前にある建物が使われていたが、そこは、最初は「西洋人の巡礼の家」と呼ばれていた。1963年に万国正義院が設立されると、その建物は万国正義院の建物として使われていたが、新しい万国正義院の建物が完成し、新しい建物に移った後、国際布教センターがこの建物を使っていた。その後、万国正義院の隣に国際布教センターが完成したのでそちらに移った。この建物は地上2階地下7階と建物全体の殆どの部分が地下にある。



国際布教センターは1973年万国正義院によって設立された。最初の目的は、大業の翼成者がいなくなった後の時代にその任務を引き継ぐ機関として設立された。任務は大陸顧問団と密接な連絡をとり、彼らを激励し、新しい布教目標を設定するとともに、大陸顧問団から得た情報を万国正義院に伝える。国際布教センターは9名の国際顧問によって運営されている。国際布教センターの主な役割は、万国正義院の指示のもと、世界各地にいる大陸顧問を通して世界各地のバハイ信教の布教と保護の仕事の企画、普及、および指導に当たっている。

3-9 Research Center of Holy Text 聖典研究センター

万国正義院の建物と国際資料館の間にある。この建物の中で、バハオラの書かれた膨大な書簡及び書物に何が書かれているかを詳細に調べ、新しく発見したことなどを万国正義院に報告する。



3-10 Monument Gardens モニュメント・ガーデン

万国正義院の建物の前方の階段を下りた所に聖なる家族の墓のあるモニュメント・ガーデンがある。ここには、アブドル・バハの妹でアブドル・バハの亡き後、守護者ショウギエフェンディを支えてバハイ信教を守ってくれたバヒヤ・カヌーム(最も聖なる葉)、バハオラの妻でアブドル・バハ、バヒヤ・カヌーム、ピュアレスト・ブランチの母で、バハオラと一生苦難を共にした、ナバーブ、アブドル・バハの弟でアッカの牢獄の明り取り窓から転落して亡くなったピュアレスト・ブランチ(最も聖なる枝)アブドル・バハの妻ムニリー・カヌーム(聖なる母)の4名のお墓がある。



3-11 House of 'Abdu'l-Bahá アブドル・バハの家



アブドル・バハはバブの霊廟建設に情熱を燃やしていた。そのためには、足がかりとなる自分の住居を建てたいと思っていた。この話を聞いたジャクソン夫人が建設資金の提供を申し出た。早速、バブの霊廟建設予定地に近いところに土地を購入した。アブドル・バハは、早速、アブドル・バハの家の設計をされた。この家は 1908 年に完成したが、当時、アブドル・バハはアッカ市外に出られない軟禁中であったので、家族の者たちだけが新しい家に移り、アブドル・バハ自身は 1910 年になってやっとこの家に移転した。その後はこの家は (House of the Master) アブドル・バハの家と呼ばれるようになった。アブドル・バハがヨーロッパやアメリカ訪問から帰った後は、外国からの巡礼者のリセプションの場所としても使われた。日本の文豪徳富蘆花が 1919 年にアブドル・バハを訪問したのもこの家であった。アブドル・バハのアブハ王国への他界後は、ショーギ・エフェンディによって増築された。1957 年からルヒヤ・カヌームがこの家の主人となりルヒヤ・カヌームの客人の接待などに使われていた。ルヒヤ・カヌームが亡くなられた時は、この家の広間で葬儀が行われた。

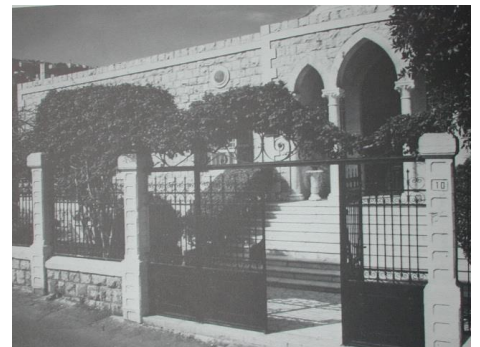
3-12 The Tomb of Rruhiyyih Khanúm ルヒヤ・カヌームの墓所



1937 年守護者ショーギ・エフェンディと結婚され、守護者存命中は守護者の書記を勤められ、1952 年に大業の翼成者になられる。1957 年に守護者がなくなられた後は、守護者の意志を継いで世界各国を廻り日本にも 2 度来日されている。その後は、国際布教センターのメンバーとして高齢にもかかわらず活躍された。2000 年 1 月 19 日、聖地のアブドル・バハの家で没す。葬儀には万国正義院メンバー、国際布教センターメンバー、大陸顧問、世界各国の全国精神行政会の代表者、などが参列した。ルヒヤ・カヌームの遺体はアブドル・バハの家の前の庭園に埋葬された。

3-13 Western Pilgrim House 旧西洋人巡礼の家

第一次世界大戦後間もなく、西洋からの巡礼者が増えてきて今までであった巡礼宿舎だけでは間に合わなくなってきた。その頃、アメリカの巡礼者ウイリアム・H・ランドールが「西洋人の巡礼の家」を建てさせてくださいと申し出た。それに前後して、イラン人のバハイがアブドル・バハの家の前の敷地を使ってくださいと申し出があった。双方の申し出はアブドル・バハによって承認された。早速、アブドル・バハの意向を入れた設計図が出来上がり、建設が開始されたが、完成前に資金不足となり、建設は中止された。1923 年(後の大業の翼成者)アミア・コリンズ婦人が夫と一緒に巡礼に来た際、このことを知って、資金の提供を申し出た。この建物は最初西洋人巡礼の家として長い間多くの巡礼者によって使われてきたが、1952 年から国際評議員の建物となり、1963 年から万国正義院の建物として使われていた。万国正義院の建物が完成すると、その後、国際布教センターとして使われていた。国際布教センターが完成し、そちらに移動した後、どのように使われるか知らされていない。この建物はアブドル・バハの家の直ぐ前にあり、直ぐ隣にルヒヤ・カナムのお墓がある。



3-14 Eastern Pilgrim House 旧東洋人巡礼の家

バブの霊廟完成後間もなく、聖地巡礼に来ていたイシカバッドのバハイ、ミルザ・ジャファー・ラーマニが、アブドル・バハに巡礼者の便宜のために巡礼者の家を建てる申し出をし、アブドル・バハはそれを許可した。彼はハイファに残って、巡礼の家の建設を監督し完成し、すべての経費を支払った。アブドル・バハはこの建物が完成したとき、大変喜んで祝賀会を催した。アブドル・バハはラーマニ氏に何か私のしてあげられることはないかと尋ねた。ラーマニ氏はアブドル・バハに、建物完成記念にアブドル・バハの言葉をこの建物に残していただきたいとお願いした。アブドル・バハは笑顔で承諾なさり、紙に「ここは巡礼者の心温まる宿泊所です。この宿泊所はミルザ・ジャマル・ラーマニにより 1909



バハイ聖地名所旧跡案内

年に設立」と書かれた。この言葉は、建物の入り口のすぐ上の石に彫られていて、今でも見ることが出来る。この建物は、アブドル・バハによる巡礼者たちとの会見や講演会などにしばしば利用された。また、守護者ショーギ・エフェンディもこの建物で巡礼者との会見に使っていた。この建物は、バブの霊廟の側面入り口から入って真っ直ぐにつき当たった所にある建物。最初この建物は、イランやイラクなどから訪問された巡礼者の宿泊場所に使われていたが、その後、ハイファの巡礼館としてハイファを訪れる巡礼者のインフォメーションセンター及び休息所として長年使われている。

3-15 Bahá'í Cemetery バハイ墓地

ハイファ市内のバハイの墓地はエリヤの洞窟の近くで海に近いところにある。バハイの葬法は死者の遺体は死亡した場所から1時間以内に運べる場所に土葬することとある。この墓地にはハイファ近辺で亡くなられた多くのバハイが埋葬されている。日本人バハイの藤田さんもここに埋葬されている。このお墓を訪問するには、ハイファ巡礼館の人に墓地の入り口の門の鍵を借りていく。

3-176 Bahá'í Temple Site for Haifa ハイファの礼拝堂用地

カルメル山の頂上近くにある。現在のところ建設予定はたっていないが、やがてはこの地に礼拝堂が建設される。現在この地にオペリスクが建っている。この用地は大業の翼成者アメリカ・コリンズ氏によって寄贈された。(写真、左)

3-17 International Baha'i Library 国際バハイ図書館

現在建設中の国際バハイ図書館は世界中のバハイに関する文献を集めた図書館で、多くの図書が保管されることになる。

